

東京・お茶の水女子大学 知の市場
お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室
2013年度活動報告

2014年2月13日

1. 理念と運営

知の市場の連携機関かつ開講機関であるお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は知の市場の創始者として、知の市場の理念と運営の基本方針を共有し、受講者、講師、友の会、開講機関、連携学会、知の市場事務局などと協働しながら活動を展開している。そして、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という知の市場が掲げる 4つの教育の基本方針の下で活動している。

また、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しさらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指す知の市場の目標を重視している。そして、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていくことによって教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めて、津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって進んでいく道を切り開こうとする知の市場の挑戦を高く評価している。

こうした基本認識に立ちつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として孵化（インキュベーション）機能を果たすことを目標としている。具体的には、新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の形成などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たすことを目指している。

2. 2013年度の実績

2.1 開講科目と受講実績

2013年度は共催講座として8科目を開講したが、このうち6科目は新規開講科目であった。これらの新規開講科目は身の回りのリスクをめぐるリスクコミュニケーションに関する科目、生活の安全保障の面からサウジアラビア石油の安定供給の日本にとっての意味を考える科目、化粧品を科学的な側面から学ぶ科目、裁判事例を通して環境法制のあり方を考える科目、韓国の経済・社会・文化・歴史について幅広く学ぶ科目、文理融合の視点をもつ規範科学を健康や環境へのリスクの評価と管理を例題に論じる科目であり、知の市場の展開を新たな分野に広げるものであった。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、科目の編成及び講師陣の組織化において 2013年度も新規開拓の孵化機能を果たした。

一方、2013年度は関連講座としてお茶の水女子大学の学部学生や大学院生向けに単位対

象科目として3科目を開講した。このうち社会技術革新学概論と安全管理概論は、知の市場で得られた知見を活用しながら知の市場の講師が、大学の正規の授業を行うものである。また、リベラルアーツの生活世界の安全保障の科目に位置づけられるリスク管理（演習）の2単位は、お茶の水女子大学の学部学生が共催講座のうちの1科目を社会人とともに受講する場合に履修届を提出することによって取得できることとした。これらはいずれも、社会の現場の視点を学校教育に取り入れる意味がある。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は2013年度も、学校教育の構造改革の孵化機能を果たした。

2013年度の共催講座の受講者の合計は174名で1科目当たりの受講者は22名であり、2012年度の共催講座の1科目当たりの受講者23名及び2013年度の知の市場全体の共催講座の1科目当たりの受講者26名を下回った。一方、関連講座の受講者の合計は54名で1科目当たりの受講者は18名であり、2011年度の関連講座の1科目当たりの受講者25名及び知の市場全体の関連講座の一科目当たりの受講者43名を下回った。共催講座と関連講座を合計した全体の受講者の合計は228名で1科目当たりの受講者は21名であり、知の市場全体の1科目当たりの受講者34名を下回った。こうした傾向は、小規模大学であるお茶の水女子大学の特性と孵化機能を担う開講拠点の特質を反映している。

表1 2013年度応募・受講状況一覧

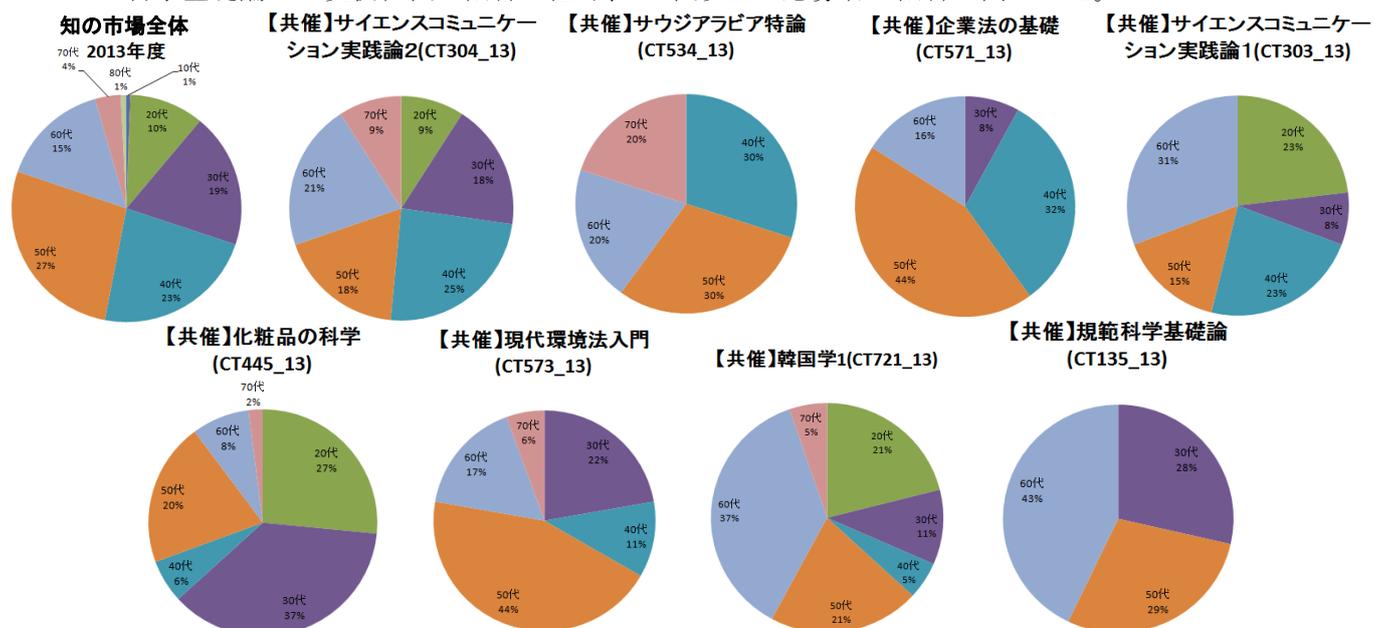
区分		科目番号	科目名	応募者(人)	受講者(人)	修了者(人)	修了率(%)	
共済講座	前期	新規	CT304	サイエンスコミュニケーション実践論2	33	33	12	36.4
		新規	CT534	サウジアラビア特論	10	10	4	40.0
			CT571	企業法の基礎	25	25	11	44.0
	後期		CT303	サイエンスコミュニケーション実践論1	13	13	5	38.5
		新規	CT445	化粧品科学	49	49	29	59.2
		新規	CT573	現代環境法入門	18	18	6	33.3
		新規	CT721	韓国学1	19	19	9	47.3
		新規	CT135	規範科学基礎論	7	7	4	57.1
合計				174	174	80	46.0	
関連講座	通年		リスク管理（演習） 《学部》（注）	16	16	10	62.5	
	前期		社会技術革新学概論 《学部》	27	27	18	66.6	
	前期		安全管理概論 《学部》	11	11	8	72.7	
	合計				54	54	36	66.6
総合計				92	92	72	78.3	

（注）知の市場の共済講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部に履修登録して受講した場合、リスク管理（演習）の2単位が取得できる。

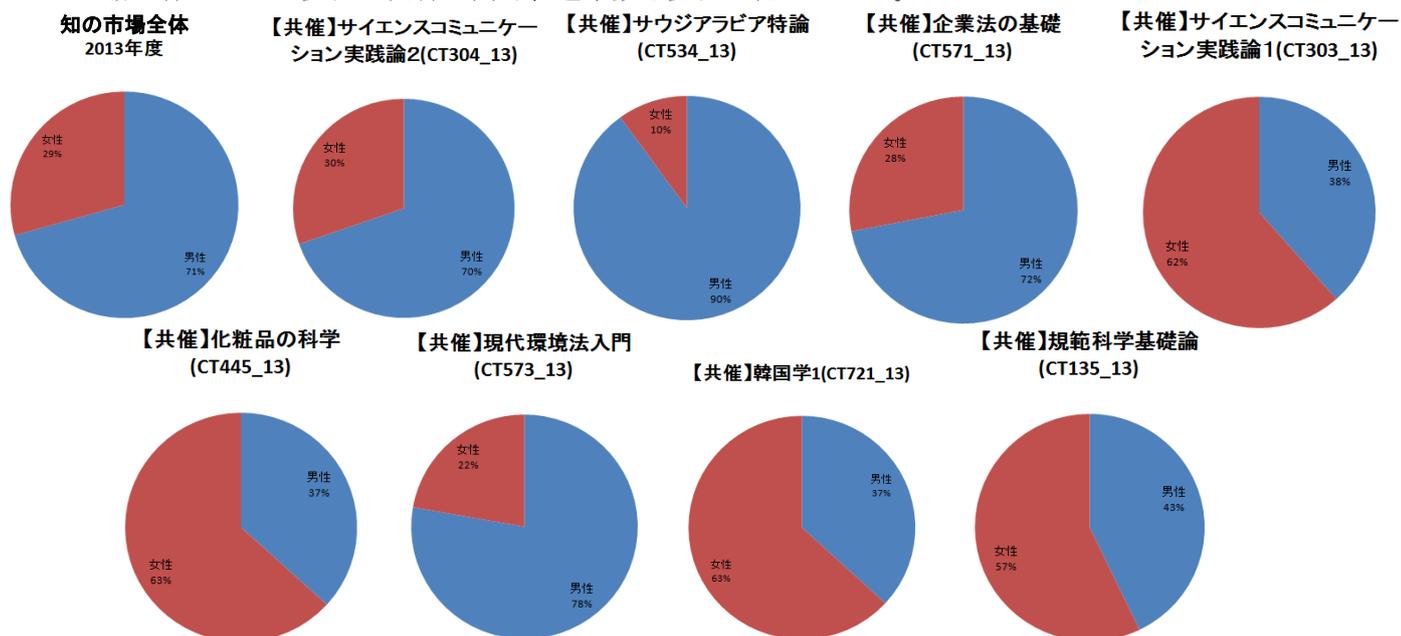
2.2 応募者の属性

2013年度の共催講座の応募者の属性は次の通りである。

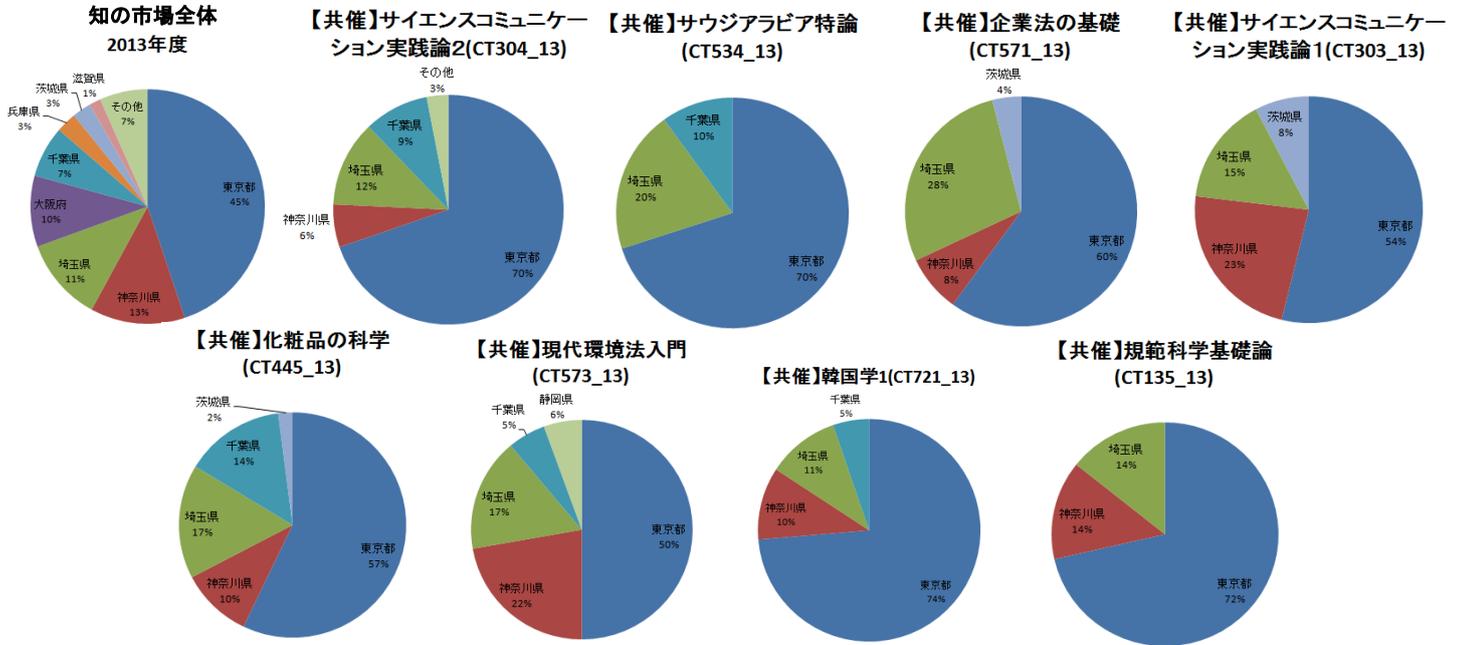
1) 年齢構成は、科目によって大きな差異がある。知の市場全体では20～50歳代の現役世代が約80%であるのに比べて、企業法の基礎、化粧品科学は現役世代の割合が高く、その他の科目については現役世代の割合が低い。特に、サウジアラビア特論、韓国学、規範科学基礎論では現役世代の割合が低く、60代以上の応募者の割合が高かった。



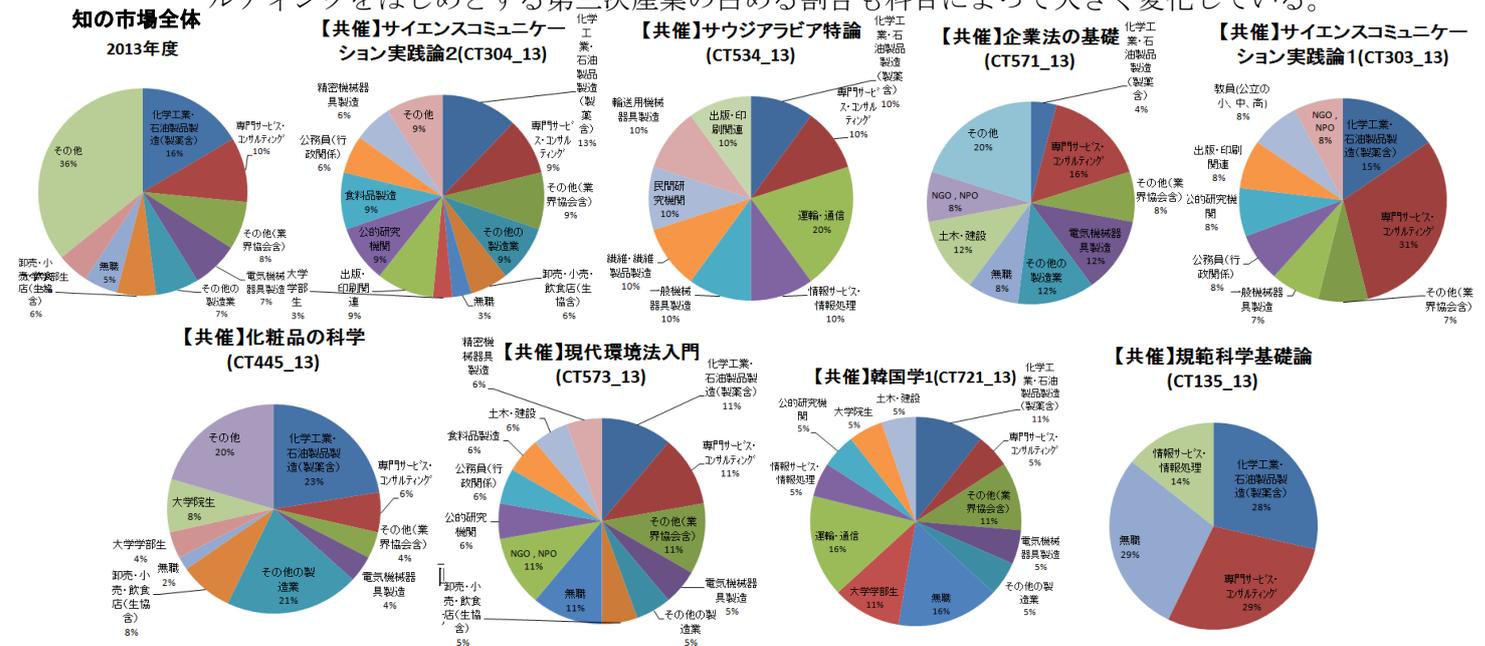
2) 男女比についても、科目により大きな違いがある。知の市場全体では男性が71%、女性が29%であったのに対して、サイエンスコミュニケーション実践論2、企業法の基礎はほぼ同じ割合を示し、サウジアラビア特論、現代環境法入門は男性の割合が高かった。サイエンスコミュニケーション実践論1、化粧品の科学、韓国学1、規範科学基礎論は知の市場全体と比べて女性の割合が高く、過半数を女性が占めていた。



3) 応募者の居住地については、科目によって違いはあるものの、全体的に東京が多く過半を占めている。知の市場全体では東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城の首都圏で全体の86%を占めていたのに対して、サイエンスコミュニケーション実践論2、現代環境法入門に静岡県からの応募者があった以外は、すべて首都圏に居住する応募者であった。



4) 業種別についても、科目による違いが見られた。知の市場全体では化学工業・石油製品製造業、専門サービス・コンサルティングの割合が高かったのに対して、各科目によって割合はさまざま、化学工業・石油製品をはじめとする製造業や専門サービス・コンサルティングをはじめとする第三次産業の占める割合も科目によって大きく変化している。



3. 2014年度の計画

3.1 開講の方針と概要

2014年度もお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、これまでの基本認識を踏襲しつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たしていく。さらに、2014年度は2016年度以降の展開を見通して知の市場として直轄での開講も行う。

2014年度に共催講座としてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンターが開講する科目は3科目であり、いずれも新規科目である。また、知の市場直轄で開講する科目は6科目であり、3科目が継続科目で3科目が新規科目である。また、2014年度に関連講座として開講する科目は3科目であり、2科目は知の市場の共催講座で得た知識や経験を活かしたお茶の水女子大学の学部学生を対象とした科目である。また、これまで通り、共催講座の科目は履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置付けられるリスク管理(演習)を履修したものととして2単位を取得することができる。こうして2014年度も構造改革の孵化機能を果たしていく。

表2 2014年度開講科目

開講機関	区分		科目番号	科目名－副題	
ウオッチセンター ライフワールド・ お茶の水女子大学	前期	新規	CT136	規範科学事例研究 1 －社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する	
		後期	新規	CT137	化学物質総合経営学事例研究 1 －国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証
			新規	CT574	法学入門 ー実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養
東京知の市場	前期		UT134	化学物質総合経営学基礎論 ー健康・環境リスクをめぐる国際的な議論を跡付けながら化学物質管理を付加価値の創造に繋げる道を探る	
		新規	UT516	社会技術革新学基礎論 ー社会変革と技術革新の歴史を検証し付加価値を生み出すイノベーションの神髄	
	後期	新規	UT114	化学物質リスク評価 ー必要な情報やデータをどう入手し活用するか	
			UT135	規範科学基礎論 ー文理融合の視点をもつ規範科学を健康や環境へのリスクの評価と管理を例題に論じる	
		新規	UT425	労働衛生管理 ー職場における労働衛生の基本を実践的に語る	
			UT551	知的財産権論 ー知的財産権制度の基本と各国の特徴	
女子大学 お茶の水	関連講座	通年		リスク管理(演習)《学部》	
		前期		社会技術革新学《学部》	
		後期		規範科学《学部》	

(注) 知の市場の共催講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部に履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の2単位が取得できる。

3.2 開講科目の概要と特徴

(1)共催講座

1) 規範科学事例研究 1

規範科学の文理融合的な特徴を踏まえながら、社会に影響をもたらすリスクの具体的な事例を検証しながらその意味と意義を論じる科目を、化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会を連携機関として新規に開講する。

2) 化学物質総合経営学事例研究 1

化学物質総合管理に係る国際協調活動の取り組みを紹介しつつ企業の自主管理の実態を検証し、社会の化学物質管理能力を向上させるために必要な課題について論考する科目を、化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会を連携機関として新規に開講する。

3) 法学入門

個人の生活の各場面での法律関係を取りあげながら、その中で基本的な法律（民法、会社法、刑法など）の考え方を学ぶ科目を、社会技術革新学会法制教育研究会を連携機関として新規に開講する。

4) 化学物質総合経営学基礎論

化学物質総合管理学を巡る国際的な論議の系譜と基本的な枠組みを、生物や放射性化学物質などがもたらすリスクの管理と対比しながら解説する科目を、化学物質総合管理学会化学物質総合経営学基礎教育研究会を連携機関として継続科目として開講する。

5) 社会技術革新学基礎論

イノベーションの実相やリスク管理の実態を検証しつつ、今後の持続可能な発展に不可欠な人材改新と社会変革のために克服すべき諸々の課題を明らかにする科目を、社会技術革新学会社会技術革新学基礎教育研究会を連携機関として継続科目として開講する。

6) 化学物質リスク評価

化学物質のリスクの評価と管理の概念を解説しつつ、現場での実践と経験による知恵を蓄積するためにはどうしたらよいかを論じる科目を、花井リスク研究所を連携機関として、新規に開講する。

7) 労働衛生管理

労働衛生管理の基本的な考え方や仕事の進め方について事例を含めながら解説する科目を、武田労働衛生コンサルタント事務所を連携機関として、新規に開講する。

8) 知的財産権論

知的財産権とは何なのか、企業経営におけるその意義とは何かを理解するために、知的財産権制度の基本や各国における実態を論じる科目を、プロメテ国際特許事務所を連携機関として継続科目として開講する。

(2) 関連講座

9) リスク管理 (演習)

共催講座の科目を受講し現実の社会で働く社会人の中に加わり共に学ぶことによって、社会の現況に対する理解を高めて世界において自らを活かしていくための教養の深化を図る科目として、リベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

10) 社会技術革新学

技術革新と社会変革に関して日本の社会が直面している課題について論じる科目をリベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

11) 規範科学

規範科学の文理融合的な特徴を踏まえながら、その意味と意義を論じる科目をリベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

4. 今後の方針

知の市場の創始者として長年の活動の中で培ってきた経験と信頼を基礎に、新規開拓や構造改革の孵化機能をさらに高めていく。